



早稲田大学 立川稲門会会報

2005年11月26日
第10号
発行 立川稲門会
事務局 立川市曙町2-32-3
サブ 立川302
鷺海会計事務所内
電話 042-527-6191
FAX 042-524-9570



また各階の正面壁際の広いガラス窓の
前には丸テーブルと椅子が置かれ、学生の憩いの場となっている。

- 第31回定時総会**
- 一、日時 平成十七年十一月二六日(土)
 - 二、会場 立川グランドホテル
 - 三、会費 懇親会費八千円、年会費三千円
 - 四、会次第
 - 受付 四時
 - 総会 四時半
 - 平成十六年度事業活動報告
 - 平成十六年度会計報告
 - 平成十六年度監査報告

- 平成十七年度事業計画
- 役員改選の件
- 広報委員会報告
- 代議員会報告
- 商議員会報告
- 公演 五時半
- 立川マンドリンクラブ
- 一九八一年立川市の文化教室として発足、会員四十人。副代表の桑原由貴さんは桑原一雅氏(S53商)の夫人。各種音楽祭、イベントで受賞多数。
- 懇親会 六時半

目を見張る新生8号館

南門の一角 粋な計らいに心和む 赤瓦旧校舎

高橋芳樹副会長



一二五周年記念事業の一つである第八号館(法学部)校舎が今年の三月に完成した。夏休みが始まる前の、エクステンションセンターの講座(俳句鑑賞)の前期が終了した日に新八号館を訪ねた。

正面に立つと、その重厚な佇まいに圧倒される。地上十二階、地下二階の新校舎は、戦後の流行であつた無修飾なコンクリートの塊を思わせる建物とは異なり、屋根は寄せ棟造り、壁面には落ちついた茶系のタイルが張られ、旧図書館、政経学部校舎などと共に、歴史継承ゾーンを占めるに相応しい外観となつてい

ほとんどの用いられなかつたものである。一階のロビーは四階まで吹き抜けになっており、更にその上は明り取りとなつていて、とても開放感がある。

とした落ちついた雰囲気をかもし出している。教室の内部も非常に明るく、学生の座る椅子は勿論一人掛けで、我々の時代のベンチの椅子がなつかしい。

一階の正面入口はこれまでのどの校舎よりも高く造られており、高等教育の場としての風格がある。入口を入つて驚いたのは、フロアーが木の板張りになってい

みる。三階、四階が教室フロアーになっており、それぞれの中央にインターネットラウンジが設けられ、学生が自由にパソコンを利用出来るようになってい

って立つ人材が、多数輩出することを期待したい。

一方、募金の方は二〇〇五年十月現在、九十億円と目標のまだ四五%のようである。先行きを心配しながらキャンパスを後にした。

国選弁護は興味津々

軽微で多様な事件、心待ち気分

信行 榎本

国選弁護事件というのは、裁判所から弁護を依頼された事件のことで、年に何回か当番が回ってくる。原則として弁護士は受任することになっている。

私も今までにおそらく百件以上国選事件をやってきたが、私は国選事件が嫌いではない。むしろ楽しみにしているといった方がいいかもしれない。なにしろ、われわれの日常生活で会うことはほとんどないような人たちと付き合うわけだから、興味しんしんである。

たとえば、ホームレスといった人たちを、皆さんは駅や公園などで見かけるだろうが、この人たちの弁護事件は少なくない。この人たちは、レストランやコンビニなどのゴミ捨て場をあさるので食うには困らない。駅などにたむろしていると、通行人の中には結構、差し入れてくれる人がいるという。冬は寒くてつらいが、寝るところも駅や公園のあずまや、神社

の庇の下などがある。事件になるのは、どうしても金がほしくて空き巣に入ったりするからである。彼らは概して気が弱く、根っからの悪人はいない感じがする。

ある日、ある被告人に面会にいったら、いきなり「先生申し訳ありません」と頭を下げられた。初対面なので面食らったが、その男は「またやっつてしまいました」という。そういうわれて起訴状を見ると、女性の下着ばかり十数回盗んだ罪である。道を歩いていて女性の下着が干してあると、つい手を出したくなるという。前と同じ事件の覚えがあると思ったら、同じ男の弁護人に当たったのだ。前

の事件では法廷で「二度とこんなことはやりません」と誓って執行猶予にした被告人だ。私は顔を忘れていたのである。前の事件の時も十数件の窃盗事件の併合罪だった。今度はさすがに弁護のしようもなく「なるべく軽く」と裁判官に頼むしかなかった。彼は実刑で刑務所に行ったが、この種の性的犯罪は病気で、刑務所を出てもまたやっつているのではないかと思う。

殺人事件も担当したが、幸い死刑になった事件はない。今度回ってくる事件は、どんな事件かなと思うと、小説を読むような楽しい気分になる、といったら被告人たちに失礼だろうか。(S33法)

自立で果たす 社会人の責任

田中清敏

会社から帰ると母親がご飯を作ってくれて、洗濯、掃除もやってくれる。家賃を払う必要もない。実家暮らしは、一人暮らしよりもはるかに楽だ。このままバラサイトしてお金を貯めて将来に備えようと、何度思ったことか。しかし僕は実家を出ることを選んだ。しかも中学校の友人と、男二人で目黒川沿いで共同生活をすることにした。

いわゆる「ルームシェア」だ。家賃は二人で割るので安い。互いの興味・行動範囲の違いから、一人では触れることができない。メリツトは様々だ。先日は同居人が連れてきた友人と、偶然ニューヨークで出会えた。

もちろん、人任せだったことが自分の責任になり大変だが、僕の選択は正しかったと思う。自立は想像以上に楽しく、自分を高める最良の手段だと思う。(H16商)

長かった私の「サラリーマン」という航海も間もなく終わる。長い航海中には平穏な日々もあったが、時化と嵐にも遭遇した。それでも終着港に無事に入港できることは望外の幸せである。

親会社の時代が外洋とすれば、今の子会社は内海の航海にたとえられる。しかし船を着けるまでは油断大敵だ。外洋時代の親会社は外部環境の変化の対応に手間取り、荒天準備なしで暴風圏に突入した。針路を①選択と集中②業務の標準化③情報を軸とした経営の三つに切り替え乗り切った。

今の私の入港予定は二〇

満足のサラリーマン人生 希望の第2ステージ夢見る



久紀 山尾 紀 久 後、私は人生を二つのステージに分けて計画を温めている。

〇七年五月である。「勝たか負けたか」「売れたかどうか」「損したか得したか」。極めて単純だが分かりやすい単一価値観の世界ともお別れである。企業という営利追求社会の中に自分のロマンを追い続けることができた

とができたので後悔はない。この後、私は人生を二つのステージに分けて計画を温めている。私の人生は私が主人公だ。

第一ステージの落日の残照の中で、私は明日の希望に満ちた日の出を夢見ている。(S39政経)

この六月で六十五歳になり、立川市から「介護保険被保険者証」が送られてきた。五年前に定年退職して年金生活に入り、人生の最後に一歩ずつ確実に近づいているわけだ。しかし、これから何カ月後が、何年後が最後なのかわからないところが、辛いところであり、大切なところであると思う。

私の母は三重県津市で、週二回ヘルパーさんに来ていただいていたヨボヨボと暮らしている。義父は昨年亡くなり、義母は最近、認知症が少しずつ進行しているように感じる。自分の「古い」も予測がつかないが、最終

予測つかぬ老いの進行 老人ボランティアで機微学ぶ



進 波多野 進 に反面教師にさせてもらうのは、デイケアに

自分がより近いはずの親の「古い」も予測がつかないのである。

自分の「古い」の反面教師になればと思いい、四年ほど前から上砂町にある砂川園の五階のデイケア施設で週一回ボランティアをして

いる。勝手

に反面教師にさせてもらうのは、デイケアに

来ている方々には大変失礼かもしれない。そこに来てくれる人は元気な方々だが、いつの間にか来なくなる人もいる。自分もいつか辿る道、どうすれば元気に乗り切って最後

を迎えられるのだろう。

城山三郎の「人生余熱あり」を十数年前に読んだ。それで定年後も元気なら「自分で出来るボランティアを」と思ったのかもしれない。最近、読み返してみても、十数年前には感じなかった「老いの意識を持たぬこと」が大切であると感じた。しかし身体がついていかないこの現実。(S38理工)

忘れたところにお盆がやってくる。

我が家では、昔からのしきたりどおりに盆を迎える。家族全員が盆入りの夕刻に外へ出て、おがらを焚く。火がおさまったところで、年上のものからその上を三回まで往復する。一番年下の子供がまたぎ終わったところで完了、家の中に入る。

これで先祖さま、仏様を家の中に迎えられたというわけだ。

盆が明けるその晩にも同じことをして仏様を見送る。父は山梨、母は立川の出身である。父の代から長く立川に住んでいる

ことから、立川の風習かと思っ

たらそうでもない。山梨でも少し違ふと聞く。どうもこれはわ

が家独特の風習らしい。ことほど左様に、日本人でさえ土地ご

と家ごとに風習、文化が違う。これが外国ともなると、宗教も

肌の色も気候も違う。文化の差があるのは当たり前である。

同じ立川という土地に、たま

たま縁あって住んだり、働いたり、買い物をしたり、学んだり

している人々が、お互い異なる文化を越えて、共に楽しく快適

に暮らそうという思いではじまったのが「たちかわ多文化共生

センター」(TMC)という民間ボランティア団体である。

立川市の国際化事業の一環として補助金を受けて発足し、その後、多文化共生にかかわる委託事業を受託して、今は特定非

営利活動法人(NPO)として認可を受けている。

田中清勝君(現立川市議会議員)たちと「地球クラブ」という国際

ボランティア組織をつくって活動していたのが縁で、立川市や他の

国際関係団体と協力して、このT

MC設立に携わることになった。

はじめは他市のよう

に国際交流協会とい

った名前をイメージして

いたが、議論するなか

で、これからは地域の

国際化が急速に進み、

今までの国際交流や国

際友好といった意味合

いから、多文化の人々

が共生できる街づくり

が主になるだろうと、この名称に

なった。設立に際しては、鶴海会

長はじめ多くの立川稲門会の方々に会員となっていた。感謝にた

えない。実際の活動でも、田中君や佐竹茂市郎君、柴香里君、そし

国籍越え共生の街作り

「NPOたちかわ多文化共生センター」

稲門会員も国際化を支援



小林 和雄

MC設立に携わることになった。

はじめは他市のよう

に国際交流協会とい

った名前をイメージして

いたが、議論するなか

で、これからは地域の

国際化が急速に進み、

今までの国際交流や国

際友好といった意味合

いから、多文化の人々

が共生できる街づくり

が主になるだろうと、この名称に

なった。設立に際しては、鶴海会

長はじめ多くの立川稲門会の方々に会員となっていた。感謝にた

て波多野進先輩には大いに活躍していただいている。

TMCの主な事業としては、外国人のための相談窓口の開設、多

言語情報誌の発行、地域国際化フォーラムの開催、通訳翻訳ボラ

ティアバンクの運営などがある。毎週二回開設している外国人相談

窓口には、各国籍の人たちがさまざまな悩みを持って訪れ、通訳ボ

ランティアの会員たちが対応している。

年一回の専門家による相談日には、弁護士や行政書士、社会保険

労務士などの専門家から直接相談を受けられるので評判がいい。

通訳翻訳ボランティアバンクには、多くの語学堪能な市民に登録

していただいている。公共的なものを始め各種文書の翻訳、国際的なイベントや保険所、病院などの

通訳派遣などを行っている。また、外国人と立川を歩こうということ

で「立川歴史探訪」や外国料理と一緒につくる「世界の料理教室」

など楽しい催しもある。ボランティアは、仕事をもって

いる方、定年退職をしている方、主婦などさまざまである。また国

籍も日本人だけでなく、中国、台湾、韓国、朝鮮、ネパールなど多

様である。帰化された方も多く、積極的に活動している。

すでに会員同士が多文化で、同じ日本人同士であっても文化の違いにとまどうことがある。また、

ボランティア活動は、会社などと違ってよい意味での上下関係がない。みな平等だが、運営する側にとつてはやりづらい面もある。N

PO法人だから、収益事業ができるが、まだ準備の段階である。翻訳通訳、講習会などが今後想定さ

れる事業だが、その事務所、会場などの確保が必要になる。

課題の多い組織だが、社会のニーズが増えていることは確かであり、ボランティアを希望する人も

多いので、うまくマッチングできれば事業展開として多くの可能性を秘めた組織である。

これからも同窓の方々と一緒に楽しく活動したい。(S47理工)

廃油ろうそくの夜体験

立川青年会議所 子供に環境保護訴え



米田 典弘

幹事長の木村辰幸さん(S63社

会)と入れ替わりで立川青年会議所(JC)活動に参加しています。

九月十日(土)、立川北口モノレール下のサンサンロードで、キ

ヤンドルナイトのイベントをしました。「子供達と一緒に環境問題を

を考える」企画で、幼稚園協会のご協力で子育て教育フェアに参加

させていただき、電気を消して、ろうそくの明かりで夜を過ごす体

験をしました。当日は大量の使用済み灯ぶら

油でろうそくを紙コップに作り、子供達にはその紙コップに絵を描

いてもらいました。また、自宅で作ったろうそくの持ち寄りも募集

し、約三千個のろうそくを集め、クリスマスツリー型の台とその周

辺にろうそくを並べ、夜の会場はほのかな灯りに包まれました。

副幹事長の鈴木一廣さん(S38法)の紹介で、キヤンドルナイト

にびつたりのアカベラ、アコーデイオン、ゴスペルの三組のステージ演奏もできました。新聞記事や

インターネットでのPRで、来場者多数をお迎えすることができ、

参加の皆様はまだまだ残暑の続く初秋の夜を楽しんでいました。

立川に住む皆様が、立川を誇りに思っ

て下さる街になるよう、これからも一同頑張っていきたいと思っ

ております。(H6社会)



散策の会、八丈に渡る

15人が島の風光と食を堪能

中村 克久

立川散策の会（中村克久幹事）が、初めて海を渡る遠征をした。行き先は東京都とはいえ八丈島。南へ二九〇キロの亜熱帯の島だ。

七月の散策の会後の懇親会で、八丈島出身の佐々木等さん（S37年文学部）のお世話で八丈富士に登ろうという話もちあがり、とんとん拍子に決定した。

九月二十七日午前十時半、ANA八二三便で鶴海会長を含め十三



人が出発。前々日、八丈島地方を襲った台風17号を辛うじてかわした幸運に感謝し、三十五分のフライトで到着。受け入れ準備のため一日早く島に入った佐々木さんが出迎えてくれた。

到着後、割烹「くらみつ」で昼食後、今回の旅の目的である八丈富士（八五四m）に向かった。七合目（五〇〇m）までは車で、残り千二百八十段を登る。平均年齢七十歳に近い参加者には、かなり厳しい登山だ。しばしば息を入れ脚をもみ、あえぎながらの一時間だった。頂上は風が強く雲の流れが激しい。白波の立つ太平洋、孤島の小島、島の全景を堪能して下山した。

宿舎は山の中腹の八丈ビューホテルだ。夕食には佐々木さんの奥さんの志保子さんも参加。ホテルで働く佐々木さんの亡き姉の友人石川やす子さんが自慢の島歌を聞かせた。そのうえ、佐々木さんの子供時代の思い出話を語るの、これには佐々木さんもぎやふん。やがて全員参加のナツメロカラオケ

ケ大会。

翌二十八日は午前九時半に町営観光バスで島巡りに出発した。町に四人しかいないガイドさんはすべて出払い、佐々木さんが案内役に。黄八丈工房では、佐々木さんの高校の後輩、山下蒼さんが島の歴史、植生、黄八丈の歴史などを解説して下さった。服部屋敷の島太鼓と島踊りなどを見物し、佐々木さんの実家へ。

この旅の圧巻は佐々木さんの実家のおもてなしだった。佐々木さんの姉妹、奥さんと一家総出で、里芋の旨煮、とれたてのカツオやタイ、くさや、づけ寿司、のりの味噌汁など山盛りのごちそう出して下さった。島焼酎で真昼の宴を満喫、二時四十分のANA八二六便で帰京し、空港で解散した。

（参加者）井川芳栄、伊藤暢子、大岩泰世、岡崎温子、鷺海量良、亀井裕子、佐々木等・志保子、中村克久、長野長正、錦織文良・雅子、碓寛、原健一、古川剛久

（散策の会 今年の歩み）

2月15日 京王線百草園（佐々木、大岩、高橋、長野、肥後、寺島夫妻、中村克）
3月8日 多摩湖、狭山湖の丘瀬（鈴木茂夫、佐々木、伊藤、廣瀬、中村克）
4月12日 国立。雨で原宅でお

わが家を訪ねて下さったのです。

南高さんは高校、大学と一緒にでした。一九七七年十月九日



甦る作遺 合唱部が公演

二〇〇五年十月十日は私にとって忘れられない日になりました。亡き娘が、国立音大付属中学二年の時に作った曲が、二十五年ぶりに甦ることになったのです。この曲は、全生徒に出た作曲の宿題の中から選ばれた四曲の一つです。長女の愛子は一九八二年（昭和

青空のトスカーナ レンタカーで快走

米田 典弘

今年のゴールデンウィークは祝日の繋がりがよかったです。妻とイタリアに行ってきました。ローマとフィレンツェを観光した後、レンタカーでトスカーナ地方を回りました。

トスカーナは、ワインと牛肉料理が有名な地域で、私も豪快なTポーンステーキを食べたかったです。大人数でないとしても食べきれないと言われ、仕方なく普通のステーキで我慢しました。しかし、その他に食べた兎や鳩も含め、とてもおいしかったです。

新婚旅行の時はフランスのプロヴァンス地方をドライブしましたが、あちらは平らで広大な土地に葡萄畑が延々と続くという風景でした。一方、トスカーナ地方は丘陵地帯で、葡萄畑の間に林が点在しており、そのため小鳥のさえずりも絶え間なく聞くことができ、素晴らしい風景の中で心落ち着く時間を過ごしました。

妻の目的はワイナリー巡りですが、モンタルチーノのワイナリーで試飲し、直接購入できたことに大満足の様子でした。運転手の私はといえば、今回も左ハンドルのMT車で、ヨーロッパの田舎道を楽しくカッツ飛ばしてきました。こちらは交通量が少ないかわりに平



高速道路や国道の標識、案内版が少なく閉口したが、ディーゼル的小型車はきびきびとよく走った

仏前にぬかづき、朗々と愛子の曲を歌い始めました。私は夫の正三郎（六）と一緒に、大泣きに泣きました。

この女性三部合唱は、来年秋に西国分寺駅前の「いずみホール」で発表するそうです。悲しみを思い出して辛かったり、涙が、それ

茶（錦織、寺島、原、中村克、竹内）
5月10日 多摩川の日野側を昭島へ（大岩、佐々木、古川、碓島、伊藤、錦織、中村克）
6月14日 高松町一帯（肥後、中村信、中村克、伊藤、佐々木、碓島、寺島、錦織）
7月12日 幸町団地、旧小林家

など（井川、古川、大岩、伊藤、佐々木、長野、広瀬、肥後、中村克、竹内）
9月27日 八丈富士（中村克久幹事ら15人）
10月11日 鎌倉街道から多摩丘陵を歩く（中村克、佐々木、錦織夫妻、井川、岡崎、原、古川、肥後、長野、大岩、寺島）

五十七年)二月五日、交通事故で天に召されました。朝、友人宅に試験のノートを貸しに行く途中、ミニバイクごと乗用車にはねられたのです。国立音大作曲科の一年生でした。掌中の玉を失って、私達は悲嘆に暮れました。違法な事故だったのに、加害者に訴訟を起こすこともできぬまま、無念を引きずってきました。

他分野に学び情熱で指導

日本舞踊は体力との闘い

丸本和代

立川稲門会の会員になってはや四半世紀が過ぎようとしている。一番の若手のつもりが、いつの間にか業務幹事の末席に連なり、今

25年ぶり娘の 中2の優秀作、女性 音大同級生の合唱



国分寺市の合唱団「マーガレットの会」で歌いたい、との申し出がありました。そして十月十日、

「いい曲だ。ぜひ歌いたい」とこぞって推薦したそうです。思い出話をしているうちに、南高さんは

この感動的な話は、二〇〇五年十月十一日の立川散策の例会会で、道すがら井川さんが話されたことを、広報委員会の錦織文良(文責)が聞き取ってまとめたものです。

並公会堂で開いた学校音楽祭で娘が指揮した時写真)に歌ったメンバーの一人でした。最近の練習で南高さんが娘の歌を口ずさんだところ、合唱団のメンバーが



清元折紙を踊る花柳小春師匠

十七歳で師範名取りとして花柳小春の名を許されるまで、芸の基礎をたたきこんでくれた師匠とともに、私の舞踊人生で忘れることの出来ないのは、早稲田大学での

二人の先生との出会いである。歌舞伎と舞踊研究の郡司正勝先生の妥協を許さない厳しい姿勢と鋭い感性、そして民俗芸能研究の本田安次先生の地道でひたむきな情熱と温かさ。このお二人の油の乗り切った時期に学生として接したことを、いま幸せと思う。そして郡司先生とは遺作「歩く」上演の折りに振付で参加し、最晩年の二年間を先生の身近で教えていただいたことが宝物である。

私がおどり続ける中で大事にしている三本の柱がある。第一は常に広く新しく学ぶことだ。おどりは勿論、歌舞伎・文楽・演劇・美術・音楽など貪欲に動きまわっている。第二は情熱を持って伝える(教える)ことだ。各自それぞれに合った作品を選び、一喜一憂しつつ育てる喜びである。第三は舞台で表現する(おどる)こと。年間二、三回、国立劇場をはじめとする舞台でおどっているが、当然

上に心が満たされました。南高さんは、中三のお嬢さんが曲を聞いて絵を描き、それをプログラムの表紙にするつもりだ、との構想まで話して下さいました。来年の秋を心待ちにしながら、日常生活に新たな張りが出てきました。(井川 芳栄・S35教育)

この旅行は、シンガポール航空の格安チケットで、名古屋に新しく開港したセントレア空港からの出国でした。名古屋までの行程も、帰路にワインを抱えて新幹線に乗るのは大変だろうと考えて車で行きました。今回の旅行ではこの東京―名古屋往復を含め一八〇〇キロぐらいは走ったでしょうか。本当に、ドライブ三味の旅行でした。

さらに今夏は、東京から青森まで車で走り、フェリーで北海道に渡り、釧路湿原や世界遺産に登録された知床近辺をトレッキングしてきました。こんな体力勝負の旅行を、いつまで続けることができるのでしょうか。(H6社会)

この感動的な話は、二〇〇五年十月十一日の立川散策の例会会で、道すがら井川さんが話されたことを、広報委員会の錦織文良(文責)が聞き取ってまとめたものです。

この旅行は、シンガポール航空の格安チケットで、名古屋に新しく開港したセントレア空港からの出国でした。名古屋までの行程も、帰路にワインを抱えて新幹線に乗るのは大変だろうと考えて車で行きました。今回の旅行ではこの東京―名古屋往復を含め一八〇〇キロぐらいは走ったでしょうか。本当に、ドライブ三味の旅行でした。

この旅行は、シンガポール航空の格安チケットで、名古屋に新しく開港したセントレア空港からの出国でした。名古屋までの行程も、帰路にワインを抱えて新幹線に乗るのは大変だろうと考えて車で行きました。今回の旅行ではこの東京―名古屋往復を含め一八〇〇キロぐらいは走ったでしょうか。本当に、ドライブ三味の旅行でした。

この旅行は、シンガポール航空の格安チケットで、名古屋に新しく開港したセントレア空港からの出国でした。名古屋までの行程も、帰路にワインを抱えて新幹線に乗るのは大変だろうと考えて車で行きました。今回の旅行ではこの東京―名古屋往復を含め一八〇〇キロぐらいは走ったでしょうか。本当に、ドライブ三味の旅行でした。

外国人が受ける「日本語能力検定試験」は毎年十二月にあるが、二〇〇二年から二回、日本の大学に留学を希望する外国人に「日本語試験」を課した。日本の大学入試の「センター試験」のようなもので、日本語の聴解や読解のほか記述式問題がある。課題は例えば「旅行するならば団体がいいか、個人で行くほうがいいか」のどちらかの意見を二十分で四百字の作文にする。大学は受験生の解答作文をフリップで取り寄せ、日本語能力、思考、性格などを評価出来るメリットがある。文系と理系のテストもあるが、授業では作文練習に時間をかける。中国の課題で反論が出た。中国人学生のほとんどが団体旅行の経験がない。修学旅行があるでしょうと問えば、行けるのは共産党員の中選ばれたわずかな子供だけだという。自分のふるさとから初めて外へ出たのが日本だから、個人で旅行もしていない。彼らは嘘の作文を書いた。中国人学生の大半は、大学受験を目前にして志願変更を余儀なくされた。日本の入学試験科目に英語があるからである。

日本語教員が見た中国人学生

留学試験に新たな問題

バイト、仕送りでトラブルも

井川 芳朶

生に二年間英語を学ばせ、終了時にS大の三年に学部編入させる。日本の大学も学生数確保に留学生は欠かせないから便宜をはかる。留学生も大学生と名がつけば、授業料の三割を日本政府が奨励金として戻してくれるし、大学独自の奨励金を貰い、アルバイトを少しやれば卒業できる。就学生(日本語研修生)の肩書きの間に、日本人の嫌がる夜中や休日にアルバイトをしてお金を貯める。中には中国の親に送金する者もいる。送金といえばこんなことがあった。外国人が大学や専門学校に入学手続きをすると、資格変更のビザを申請する。二〇〇四年から、留学目的の入国は親からの送金が当然ということで、入国管理局が通帳のコピー添付を義務づけた。

だろ。先生見て、と差し出された写真の数々。ウェディングドレスを着替えた何種類もの婚礼写真だ。華やかな二人の写真だけ撮って書類を出すだけだが、今年日本人と結婚する女生徒がとても多い。相手の日本人男性は四十代とみえ、コンピュター関係者が多い。アルバイト先で知り合ったり、結婚した中国人の友達の紹介という。ろくに喋れないのでは子供が出来たら困るよという。中国の親に預けるから平気、年に三万円も送ってやれば親も喜ぶから」と屈託がない。夫は、愛情より別れる時に慰謝料を多く取れる人が条件と言ったが、本音かもしれない。スリランカの学生が、携帯電話の通話料を二十万円請求された。中国人は馬鹿だと笑う。どこぞのマンションで、二千百円分のテレカが五百円分買える。国際電話はテレカに限るそうだ。豪州に娘を嫁がせている日本人教師からも頼まれると笑っていた。

数カ月前に教務は留学生を集めて、アルバイト給料が振り込まれる通帳のほかに、もう一つ通帳を作るように指示した。大金をいったん国の親元に送り、改めて新しい通帳に国から送金してもらった。アルバイトは週二十八時間以内と決められているから、それに見合う収入の金額も新しい通帳に生活費として入れ替えさせた。夏になって、福建省からの学生がビザが出ないと電話をかけてきた。日本人の若者に教えられて、アルバイト先の源泉徴収証をもつて確定申告し、還付金を喜んで受け取った。そのうえ、ビザ申請時に通帳をそのまま見せた。当然入管は、金額オーバーは留学目的にあらずと、彼にビザを発給しなかった。いまごろは不法就労者となつて、日本のどこかにいる

熱心で真面目な学生もいる。中国の大学の日本語科で漱石や志賀直哉を読んだS日君は教師を目指す。中国人としては珍しく優柔不断だが、来年は彼を大学院へ進ませようと思う。七十歳を前にカウンセリングの勉強を終わらせようと、新宿に通い出した。学習が少し困難ではある。覚えなくてもレポキラムに追われる日を過ごしている。留学生とは、電話で話すだけになった。小論文や作文をフリップで送ってくるものもある。それを朱で直して郵便で送り返している。数年後にはこんな関係もなくなってしまうだろうが、お礼のついでに、電話で「先生会いたい」と言われるのは嬉しい。(S 35 国語)

半年先を企画 香里

早稲田学報の編集委員になって早くも一年が過ぎました。隔月発刊となり、装丁も大きく変わりましたが、皆様の印象はいかがでしょう。か。

毎月末の月曜日に二十人ほどで編集委員会を開きます。ほぼ半年先の号まで検討します。まず人選があつて、執筆依頼、原稿締め切り、編集などの工程を経るので、これでもギリギリなのです。

特集については毎回、さまざまアイディアが出され、読者ニーズへの対応などを巡って激論を交わします。

委員の皆さんはジャーナリストや出版界ご出身の方方で、私ほどもよい勉強をさせていたたいです。

来春の卒業生から校友会費が前納になるため、若い校友の増加という状況を目前にして、新しい若い世代にも読みやすい学報を送り出したいと思ひます。

皆様のご意見、ご要望、ご投稿をお待ちしております。(S 61 教育)

宮野司法書士事務所

行政書士 宮野 孝雄 (S 57・社会学)

昭島市中神町二一五七番地三四
TEL (042) 5461641-18
FAX (042) 5461639-18
携帯 091-8311840-5
E-mail: m-no-office@uno.ocn.ne.jp

ビザラお届け!
㈱ビーエスエス

尾上 研児 (H2・理工)

ビザラ青梅店(0428)2411500
ビザラ福生店(042)53011300

立川駅のお弁当
株式会社 エヌ・アル・イー中村亭

中村 克久 (S 36・政経)

立川市柴崎町二一三三
TEL (042) 5241201-1代
FAX (042) 52612600

㈱アイ・イー・ピー多摩

中村 信 (S 38・文)

立川市曙町二一六一〇
TEL (042) 5311311-1代
FAX (042) 5311311-1
Eメール: iapiana@dream.com

人材育成・社員研修
㈱オフィス広瀬

廣瀬 俊夫 (S 39・文)

立川市西砂町一六六一三
TEL (042) 53112687

村野税務会計事務所

村野 俊輔 (S 57・政経)

立川市柴崎町二一四九村野ビル2F
TEL (042) 52118950
FAX (042) 52118951

多摩中央舞祭株式会社

森山 勇 (S 37・政経)

立川市錦町四一八一三
TEL (042) 52511230
FAX (042) 52510434

中村克久

早稲田スポーツ急成長

野球、ラグビーだけじゃない!

早稲田大学には競技スポーツセンターが統括と支援をする運動部が四十三部ある。一九〇二年(明治三十五年)東京専門学校から早稲田大学に改称された際、大学の公認を受けたのが柔道、剣道、弓道、庭球、野球、漕艇部だった。ちなみに一番新しいのは五年前に公認されたラクロ

については日頃から校友の関心も高く、マスコミによってその活躍を知ることが出来るが、それ以外にも活躍している多くの運動部がある。

男子ソフトボール部はアメリカ西海岸で行われたNAFA (North America Faspich Association) ワールド選手権に極東代表として出場、見事に世界選手権を獲得した。そのうえチームとしてもスポーツマンシップ賞を受賞。庭球部は九月の全日本大学選手権で男子シングル優勝、女子シングル、男子ダブルスが準優勝した。また体操部は、トルコで行われた第23回ユニバシアードで馬場亮輔君(人科4)が優勝した。

野球やラグビー(早稲田は正式にはラグビーはラ式蹴球部、サッカーはア式蹴球部、アメリカンフットボールは米式蹴球部という)

奥島前総長は、一二五周年にはすべての運動部が全国優勝、そのためには大学としてもあらゆる支援を惜しまないと言っていた。事

駅伝チーム菅平合宿 熱気あふれる激励会

良量 海駕

八月五日、長野県菅平で早稲田大学駅伝サポーター倶楽部(会長奥島孝康教授)が主催する激励会に参加した。

菅平の入り口である上田市は妻の出身地。大学三年の後半から頻りに行った町で、懐かしい。

校友の参加者は、往年の名選手瀬古利彦氏ら六十人で、上田駅前十二時半集合、バスで激励会の



会場は宿泊場所でもあるプチホテルゾントックに到着。ひと休みしたあと、菅平に隣接する須坂市峰の原高原にあるクロスカントリーコースで練習風景を見

実ここ数年、運動各部の成績が確実に上がっている。トップアスリート奨学金制度も新たにスタートした。これはオリンピック出場を目指せる競技者が対象で、まず水泳部などで五人が決定した。早稲田大学を目指すトップクラスの高校生に門戸が開かれたのである。

関東学院に完勝の日 ラグビー愛好会発足

等木 佐々

立川稲門会に「ラグビー愛好会(佐々木等幹事)が発足したのは、今年一月九日、全国大学選手権で早稲田大学が関東学院大を破り二年ぶりの日本一となった日です。試合終了後の二十人余りの祝杯の席上でした。

ラグビー愛好会は、ゴルフ愛好会や散策の会とは大きな違いがあ

ります。それは本人が「プレイ」したり「歩いたり」しないことです。グラウンドを走り回るラグーマンを観客席からひたすら応援することです。

九月二十五日の対立教戦から今年の対抗戦がスタートしました。同時にラグビー愛好会もシーズンのスタートです。

四年連続、大学選手権で顔を合わしている関東学院大とは、春夏のオープン戦を制した方が冬の日本一になるそうです。幸い、今年のオープン戦は春、夏とも圧勝し、順調な仕上がりを見せ、戦力は万全です。NO8佐々木、フツカー青木、右センター今村、左ウイングの首藤、特に二年生の五郎丸が将来どんな怪物選手に化けるのか楽しみます。

果たして、今年「あらぶる」を何度聞けるでしょうか。

このコースは、標高千三百餘の菅平よりさらに二、三百餘高いところにあり、延長二キロ。参加選手二十人がコースの半分一キロを三分で走って二分休み、また走って二分休みを十回繰り返す。

夕方六時からホテルで激励の懇親会。ゼミ合宿で菅平に来ていた奥島前総長も合流した。奥島教授の挨拶に続き瀬古氏「写真写りが乾杯の挨拶をし「箱根駅伝予選会はまだ「よせんかい」。乾杯は『完敗』に通ずるので『完勝』で『唱和を』。これには参加者全員が大爆笑だった。

このトレーニングはインターバル・トレーニングといい、心肺機能を高める効果があるそうだ。チェコ・スロバキアのマラソン五輪選手、ザトベックが考案した。

「来年は上位のシード校入りを目指して頑張りたい」という渡辺監督の力強い決意表明に、場内を埋めた校友から盛んに激励の声援が飛んだ。(S37政経)

TO K Y O 大樹法律事務所
弁護士 榎本信行 (S33・法)
新宿区新宿一〇一三
太田紙興新宿ビル八階
TEL (〇三) 三三五四一九六六一
FAX (〇三) 三三五四一三三二四

鷺海公認会計士事務所
公認会計士 鷺海量良 (S37・政経)
立川市曙町二一三二二
サンパレス立川三〇二号
TEL (〇四二) 五二七一六一九一
FAX (〇四二) 五二四一九五七〇

社会保険労務士法人 木村事務所
代表社員 木村辰幸 (S63・社会)
労働保険事務組合 経営者多摩福栄会
立川市砂川町五七九七 ウィンダスター3砂川七〇三
TEL (〇四二) 五三五一三〇七〇
FAX (〇四二) 五三五一三〇七三

志村エステート株式会社
取締役 志村順子 (S40・文)
立川市富士見町四一六一一
TEL (〇四二) 五二二一〇六一一
FAX (〇四二) 五二二一〇六一二

建築設備設計事務所 三井企画株式会社
代表取締役 小林和雄 (S47・理工)
立川市錦町四一五一一
TEL (〇四二) 五二六一三三四五
FAX (〇四二) 五二二一八二一八

電子制御機器の開発設計 株式会社 エルテック
代表取締役 長野長正 (S32・理工)
東大和市中原一三三三三
TEL (〇四二) 五六六一〇三三三
FAX (〇四二) 五六六一〇三三三

平成17年度 立川稲門 ゴルフ愛好会定例コンペ成績

| 第18回コンペ成績 (5月18日) | | | | | | | 第19回コンペ成績 (10月4日) | | | | | | | | |
|-------------------|----|----|-----|----|----|-----|-------------------|----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|
| 於 花咲カントリークラブ | | | | | | | 於 昭和の森ゴルフ場 | | | | | | | | |
| アイウエオ | 新 | アウ | イン | グロ | ハン | ネット | アウ | 新 | アウ | イン | グロ | ハン | ネット | 順位 | ハン |
| 江藤 英彦 | | 43 | 42 | 85 | 12 | 73 | 6位 | | 46 | 39 | 85 | 12 | 73 | 3位 | 11 |
| 大岩 泰世 | | | | | | | | | 44 | 42 | 86 | 7 | 79 | 10位 | |
| 鷺井 量良 | | | | | * | | | | | | * | | | | |
| 亀子 裕子 | | | | | * | | | | | | * | | | | |
| 小林 豊夏樹 | 41 | 42 | 83 | 11 | 72 | 5位 | | | | | 11 | | | | |
| 小杉 義夫 | 46 | 52 | 98 | 20 | 78 | 11位 | | | | | 20 | | | | |
| 佐々木 秀 | 46 | 54 | 100 | 28 | 72 | 4位 | 53 | 55 | 108 | 28 | 80 | 14位 | | | |
| 島田 敏三 | 56 | 57 | 113 | 36 | 77 | 10位 | | | | | 36 | | | | |
| 鈴木 弘次 | | | | | 29 | | | | | | 29 | | | | |
| 田中 清勝 | | | | | 20 | | | | | | 20 | | | | |
| 寺島 暢夫 | | | | | * | | | | | | * | | | | |
| 中村 克久 | 41 | 47 | 87 | 12 | 75 | 7位 | 45 | 45 | 90 | 12 | 78 | 7位 | | | |
| 長野 長正 | 52 | 48 | 100 | 22 | 78 | 12位 | 52 | 50 | 102 | 22 | 80 | 13位 | | | |
| 鈴木 文良 | 51 | 49 | 100 | 22 | 78 | 8位 | 50 | 51 | 101 | 22 | 79 | 11位 | | | |
| 梶 寛 | 51 | 57 | 108 | 30 | 78 | 14位 | 52 | 52 | 104 | 30 | 74 | 5位 | | | |
| 波多野 進 | | | | | 30 | | 62 | 52 | 114 | 30 | 84 | 16位 | | | |
| 原 健一 | | | | | 19 | | 52 | 45 | 97 | 19 | 78 | 8位 | | | |
| 飯後 昭一 | | | | | 30 | | 58 | 50 | 108 | 30 | 78 | 9位 | | | |
| 広瀬 俊夫 | | | | | 26 | | 52 | 46 | 98 | 26 | 72 | 準優勝 | 23 | | |
| 吉川 剛久 | | | | | 16 | | 47 | 49 | 96 | 16 | 80 | 12位 | | | |
| 吉川 剛久 | | | | | 16 | | 49 | 44 | 93 | 19 | 74 | 4位 | | | |
| 町田 弘 | 46 | 47 | 93 | 26 | 67 | 優勝 | 51 | 51 | 102 | 21 | 81 | 8位 | | | |
| 森山 勇 | 38 | 40 | 78 | 10 | 68 | 準優勝 | 50 | 57 | 107 | 30 | 77 | 6位 | | | |
| 山原 紀久 | 46 | 48 | 94 | 24 | 70 | 3位 | 45 | 43 | 88 | 17 | 71 | 優勝 | 13 | | |
| 山本 武男 | 49 | 56 | 105 | 30 | 75 | 8位 | | | | | | | | | |
| 吉川 義明 | 47 | 46 | 93 | 16 | 76 | 9位 | | | | | | | | | |

同ネットはハンデ上位でランク

多才で幅広い人脈

八尋麻也子さんを悼む



か聞いても、亡くなるとはついでに思っても見なかった。今でもあの

八尋麻也子さんが、今年の一月二日に亡くなった。女性は男性よりも遺伝的に強靱であるという信念をもつて、八尋さんが間質性肺炎とかいう難病に罹ったとか、癌を併発したと

独特な声で電話がかかってくるような気がしている。私が八尋さんと知り合ったのは稲門会の席であるが、特に親しくなったのは、もう十年以上前、妻の伯母の句集を本にしていたからである。大変立派な本にしていたので、伯母が大変喜んで、その時、彼女の並々ならぬ才能を知ったのである。彼女は、立川のお歴々をずいぶん多く知って、人脈の広さは大変なものだった。皆が彼女の才能を見込んで仕事を頼んでいたようである。

妻の妹と友人でもあったので、八尋さんと妹と妻と私の四人で八ヶ岳へ三回ほど旅行した。彼女は面白い物が好きで、人形などをやらに買って喜んでた。夜は、立川の人物月旦をやって楽しんだのも懐かしい思い出である。彼女の思い出で忘れられないのは、稲門会の二代目会長の砂川さんが亡くなった時、お葬式の受付と一緒にやっていたら、メソメソ泣いてばかりいてまるでお嬢ちゃんみたいだと思った。彼女は一人っ子だと聞いているが、一生お嬢さん気分を忘れず、玲瓏とした生涯を生きたと思う。

八尋さん、安らかに眠りください。 (榎本 信行・S33)

森山さん、ガバナリーに

ライオンズ248クラブの頂点

東京立川ライオンズクラブの森山

勇さん(S37政経)が来年、三三〇ーA地区(東京二十三区)の二〇六クラブ、多摩地区の四二二クラブ、会員は約五七〇〇人のガバナリーに就任することが内定した。

このほど開かれたライオンズクラブ国際協会の同地区年次総会で副ガバナリーに選出された。このポストは、次期ガバナリーになることが不文律になっている。来年二〇〇六年、米ニューオーリンズで開かれる世界大会で承認され、正式に就任の運びである。 (鷺海 量良)

事務局便り

▼毎年のことだが、年一回の事務局便りを書いて、年一回のこの経つのが早いな、と感じる。多忙な仕事の合間に、稲門会の仕事を優先し、本業は自宅に持ち帰って深夜まで仕事をしたり、あるいはその逆であったりと、大変ではあるが、立川稲門会の事務局はボランティアには多様な事務処理能力と、役員への積極的な情報提供と会員へのサービスと、全国稲門会へのなかでも抜きん出ていると自負している。かといって慢心するつもりはない。改善やご要望などがあればぜひ事務局にお寄せいただきたい。

▼立川市在住会員は九九五名だが、そのうち、立川稲門会の年会費三千元(うち千円は二五周年募金に充当)の納入者は毎年三〇から一五〇名である。地区稲門会の財政は、校友会本部からの組織強化補助金(立川稲門会の場合九万三千元)もあるが、何となくとも会員の自主的な会費納入に依存せざるをえない。まだ立川稲門会の会員になっていない在住校友の皆さんには、ぜひご協力をお願いしたい。

▼今回の会報一〇号も錦織文良広報委員長、中村信広副委員長をはじめ広報委員の皆さんに大変お世話になった。そして肝心の紙面作りは例年通り全面的に中村信委員のご子息である大(はじめ)さんに会報世話になった。また、会報広告継続スポンサーとしては前号に引き続き三人の協賛広告をいただき、佐竹副幹事長からは協賛金のお申し出があった。会報制作費のすべてはこれで賄えることになった。

感謝しお礼を申し上げます。関係者の皆さまに、心から厚く。母校の二五周年記念事業募金の募集期間は残り二年だが、全体の目標額二百億円に対し実績は

九十億円、達成率四五%だ。一方、わが立川稲門会が大学から示された目標額は、九七五万円。これに対する実績は、二、四五二万円、達成率は二四%だ。内訳は個人一、九六一万円(九三人)、法人四一〇万円(四社)、団体八一〇万円(立川稲門会の年会費より充当した平成一一年度からの六年分累計額)。この達成率は全国でも三位のポジションにあるが、立川稲門会としては市内法人三〇社のうち一社だけしか応募していないので、今後は市内法人を重点的にお願いしたいと考えている(ちなみに四社のうち三社は市外法人)。いづれにしろ金額の多寡を問わず、応募して下さった個人と法人の方々、年会費納入を通じて募金された方々に心から謝意を表したい。

▼さて、慶應義塾大学は二〇〇八年から一五〇周年を迎える。今年七月から五年間で二五〇億円を目標にするそうだ。募集期間は早稲田の七年に対し五年と短い、金額は多い。世間では期間内に軽く達成するだろうとの噂だ。早稲田はあと二年。がんばれ早稲田！

▼今年も余すところひと月となった。早稲田にとっても会員の皆さまにとっても、来年も良い年であるように念じてやまない。(鷺海)

広報委員会 錦織文良(委員長)
中村信(副委員長) 志村順子、伊藤暢子、高橋芳樹、長野長正、原健一、廣瀬俊夫、鷺海量良

21世紀の後輩を支援しよう

母校への愛校心が新しい早稲田をつくります
創立125周年記念事業募金にご協力をお願いします
お申し込みは事務局(042-527-6191)か直接、大学(03-3204-0125)へ